

アンケート調査と調査票

調査実習でアンケート調査を実施するさいに、もっとも時間を要するのは、調査テーマに関する問題意識を明確にし、仮説を設定し、調査票を作成するまでである。個人研究の場合は研究の蓄積があるので、仮説を導き出すことは比較的容易である。

しかしながら、社会調査士の資格を取得するために集まってきている学生の問題意識は、それほど深いものではない。ましてや、かなりの数の学生が調査実習を受講するとなると、各自の問題意識はばらばらなので、なにを調査するかを決定するまで、そうとうな議論を要する。なんとか関連づけられるテーマごとに学生たちをグループ分けして、ようやく調査票の作成にとりかかることになる。

調査票を作成するさいに気をつけなければならないポイントについては、あらかじめ講義で学んでいるが、調査票をじっさいに作成する作業は、実習が始まってからとなる。

客観的な事実を質問する項目の場合はそれほど問題にはならないが、意識に関する項目となると、ワーディングは慎重に行う必要がある。誘導質問にならないように、しかしなにを質問されているかがわかるていどに、質問文には説明が必要となる。しかもその説明が、調査の対象者に同じように理解されるように注意しなければならない。

調査法のテキストには、適正なワーディングの例が示されているものもあるが、各自で作成するとなるとハードルが高い。したがって、既

存の調査票を借用せざるをえなくなる。

考えてみると、調査票の作成は、テキストから学ぶというより、先生や先輩から調査の場面ごとに個別に学んできたような気がする。「コミュニティモラルと社会移動」に関する共同研究で、かなり歴大な調査項目を盛りこんだ調査票を作成したときには、2,3日泊まりがけで侃々諤々の議論をしたが、その経験はいまでもおおいに役だっている。

多くのテキストは、調査後の統計的データ処理の方法に関しては、微に入り細にわたる説明項目があるのに対して、調査票の作成に関する説明項目は通り一遍で、あまり有効ではない。

回答者が質問者の意図するところを的確に答えてくれなければ、データ処理をいかに充分に行ったとしても、調査結果の分析はまちがってしまうことになる。

最近の実証的研究論文に、調査結果は統計的に有意であるので、調査項目間に関連があるという記述が目だつように思うが、それはなにを明らかにするために調査を行ったのか、そのためにどのような調査票を作成したのかよりも、どのようなデータ処理をしたのかに、より関心があるためではないかと思われる。

アンケート調査では、調査票がすべてである。調査票の作成をまちがってしまえば、調査は台なしであると学んだ者にとっては、このような状況をどうしても納得できないのは、時代遅れなのであろうか。

三浦典子

社会調査協会 理事